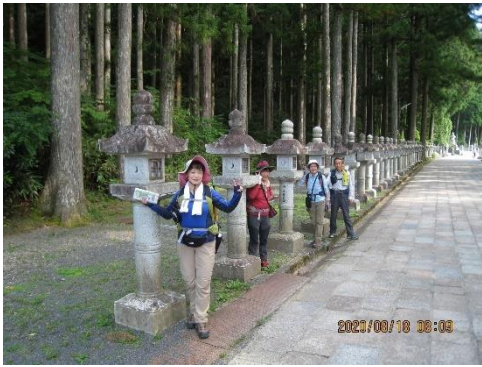


高野女人道（高野三山 主峰：楊柳山 1008m）

山行日 令和2年8月18日
メンバー 弥生班（5名）



奥の院入り口で出発前の記念写真



「無縁塚」石仏がピラミッド状に



「高野七口女人堂跡・高野三山めぐり」
南海電鉄観光案内絵地図により27番から出発です。目標の57番女人堂まで（約6時間）でが本日の行程です。

コース 岩出図書館 **P** 7:00 → 奥の院 **P** 発 8:00 →
楊柳山着 12:00（昼食：休憩） → 女人堂着
14:00 → バス乗車 14:13 → 奥の院 **P**
14:30 → 岩出図書館 **P** 16:0

『高野山は八葉の峰と呼ばれる 1000m 前後の山々に囲まれた山上の平坦地で、明治5年に女人禁制が解かれるまで、厳しく女性の入山を規制してきました。高野山への参道としては俗に「高野七口」と呼ばれる街道が通じており、かつては各入口に女性のための籠り堂として女人堂が建てられ、女人信者は御廟を拝みたいと、女人堂から女人堂へ八葉蓮華の峰々を辿ったといわれ、この道を「女人道」と呼んでいます。』（県観光情報サイトより）

『女人道は、高野山が1872年に女人禁制を解くまで、女性が高野山を参拝するために高野山境内の周囲に置かれた女人堂を結ぶ巡礼路で、2016年に高野参詣道の一つとして、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産に追加登録された。』（ウィキペディアより）

今回の弥生班の山行は、弘法大師御廟を取り囲むようにそびえる魔尼山・楊柳山・転軸山の高野三山を巡る女人道高野三山を含め往時の女人道を辿るもので、峰々を周回する女人道の約半分のコースを反時計回りに山行しました。

高野山の外周をたどる道。静けさにつつまれ、今も昔も変わらない風景に出合えると言うことで8時過ぎに奥の院駐車場から出発。



高野三山のうちの初めての一座。「摩尼山・まにざん 1004m」
山頂に建つ「如意輪観音菩薩像」を祀った祠。

山道をよく見て歩いていると足元にはコガネムシが多数見かける。こんなに見かけるのは初めて。思わず誰かから「黄金虫の歌」が。♪黄金虫は金持ちだ～金倉建てた～♪と。だが続きの歌詞を聞くが誰も知らず。しかもこの歌詞はどうして黄金虫が金持ちなんだ？何故に倉を建てた？



一部木製の階段がある箇所も



合流の黒河道は崩落のため通行止めと



天軸山山頂にある弥勒菩薩の祠



57 番の看板。本日の最終地点。

ここにある女人堂からバスで出発点の奥の院駐車場まで戻ります。

皆に聞くがコガネムシだから小金持ちなんだとか？意味不明。余談ではあるが後で調べるとちゃんと後の歌詞もあった。しかも作詞がかの野口雨情で作詞が中山晋平である。またこの歌詞の意味も推測ながら2説があるらしいと判明。(興味を持たれた方はネット解説記事を)



楊柳山山頂で今日の参加者全員

楊柳山では本日初めての登山者に遭遇。記念写真を撮って頂く。紀峰山の会のメンバーだと紹介したところ痴呆山の会と発言があり(本人の聞き間違い)皆で爆笑。



摩尼山を下りたあたりの水辺で見つけた不思議な切り株状の植物。株と株が繋がっている。葉が見つからなかったが枯れた切り株ではなくちゃんと生きていた。この辺りに分布しておりかなりの範囲で確認された。このような樹は今まで見たことがなかった。

丁度12時頃に天軸山に到着し昼食を摂る。その時にA氏からノンアルコールビールが配られる。彼は6缶もこの山頂まで持ち上げてくれたのである。しかも保冷剤と共にである。冷えたノンアルコールが最高に旨かったのは言うまでもない!感謝!

当日は和歌山市内の気温が35℃以上あったが山中は28℃程度で行程の大部分が木陰で帽子は殆ど不要だった。その分視界はイマイチだったものの樹々から通る風が心地よく、酷暑から解放され真夏の山行と思えない程の快適さがあった。山行後は土産物屋に寄り「ごま豆腐」や「焼餅」を購入。焼餅屋さんでは冷たい麦茶を出して頂き焼餅に舌鼓を。皆さん麦茶のお代わりにヤカンを空にしてしまった一幕も。

今回は時間の関係から周回コースの約半分しか歩けなかったが、残りの女人道もまた歩きたいとの声がありました。